

報告・体験会で水の大切さを実感してもらいたい！

村の水と暮らしを考えよう！

団体名 特定非営利活動法人
ブリッジ エーシア ジャパン
主な活動地域 ミャンマー国乾燥地域および日本

目的

ミャンマー国乾燥地域では毎日、遠くの水源まで水を汲みに行く必要がある。子ども達はそのために学校に行けない。日本にこの現状を伝えるための体験用の道具などを開発し、それを使って報告会を開催する。現地スタッフによる村の話や道具を使ったリアルな体験によって、井戸の建設および修繕などを行っている当団体の活動を理解してもらい、今後の協力者の拡大や、日本人が水の大切さに気づく機会に活用する。

実施内容

2008年7月、北九州市立すがお小学校で、環境教育として報告・体験会を実施した。現地で活動しているスタッフが一時帰国しての話に子ども達は熱心に耳を傾け、実際に使っている天秤棒と桶で水汲み体験をして、現地の子ども達の苦勞と水の大切さが実感できたようだ。この企画は大変好評であった。こうした集いを本年は関東エリアの2、3校で開催し、ミャンマーの実情を広報する。そのために、学校などとの関係を深める一方、体験会で使用する天秤棒と桶を整備する。これを使用し、参加者の反応を確認して改良を加え、実情が伝わるように、水の大切さがわかってもらえるようにする。

選考委員のひとこと

すがお小学校で話をした現地スタッフ(30代・女性)は、デング熱を押しての参加だったと聞いた。頭が下がる。あの日の子ども達の感動を他校へも広げたい。

TOTO 総務部 Sさん記



ボランティアに参加しよう！

- ★東京本部での打ち合わせ 2008年10月
- ★広報ツール(天秤棒・桶など)の開発 2008年12月～2009年 3月
- ★「ミャンマーの水と暮らし」報告会の実施 2009年 4月
- ★広報ツールの見直し 2009年 6月



実際に現地で使われている道具を使って体験した



現地の子も達はひとりで約40kgを担ぎ片道2kmを運ぶ



雨季になればため池になるところも、完全に干上がっている